キズナエピソード

槍水りり　4話

//ヴィジュアルノベル形式開始

//とびお自室

「もしもし？」

りりを泊めた翌日、電話が来た。

「おう、りりか。どうした？」

「……今日も、泊まらせてほしいなー。なんて」

こちらの機嫌を窺うような声音。

そんなことしなくても、泊めてやるのに。

//次ページ

「約束通り、ちゃんと連絡してきたな。えらいぞ」

「ちょっと～、子供扱いしないでほしいんだけど！」

「あはは……おう、いつでも来い。

美味しい晩飯用意して待っててやる」

「うわ～、楽しみ！　それじゃね！」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［とびお］

俺はりりを部屋へと迎え入れた。

今まで通り、友達を家に招待しているだけだ。

［とびお］

りりも、そんな空気が心地よかったのか、

昨日と比べて表情は柔らかかった。

［りり］

「……ねぇ、とびお」

［とびお］

夕飯も食べ終わり、まったりと落ち着いてきた時。

りりが俺を見つめてきた。

なんだか真剣な様子だった。

［とびお］

「なんだよ、急に改まって」

［りり］

「今日は、聞いてほしいんだ」

［とびお］

言いたくなったら、聞いてやる。

この前、俺はりりにそう言った。

その時が早くもやって来たようだ。

［とびお］

「……そうか。

いいぞ。最後まで聞いてやる」

［りり］

「ありがと……」

［とびお］

俺はちいさく頷くと、りりが続ける言葉を待った――。

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

「じつはね。アタシのお母さんが家に男を連れてきたんだ」

ゆっくりとだがハッキリと、りりは言葉を吐き出した。

「あぁ、心配しないで。

アタシお母さんとは普通に仲良いよ。友達みたいな感じで

でも、今回のことは許せなくて……」

//次ページ

「お母さんとは？

　りりのお父さんは……？」

「お父さんとは、5年くらい前から別居してる。

　新しい男を連れてきたからって、

　お父さんのことをかわいそうだとかは別に思ってない。

　アイツはどうしようもない浮気野郎だから」

//次ページ

「でも、それとこれては話が別だよ！

　まずはお父さんとの関係に、一度けじめをつけるべきっしょ!?

　なんで、もう他の男を連れてくんの!?

　これじゃあ、どうしようもないお父さんと同じじゃん！

　そんなお母さんなんて、大っ嫌い！

　……そう思って、家を飛び出してきちゃったんだ」

//次ページ

「そもそも、今までお母さんと二人で仲良く暮らしてきたのに、

　いきなり男が家庭に入ってくるなんて、耐えられなかったしね」

言葉を紡いでいくにつれ、

りりの目には大粒の涙が浮かび始めていた。

//次ページ

「いままで、友達の家をあっちこっち泊めてもらってたんだけど、

　お母さんが知っている場所だと連絡が来ちゃって……。

　じゃあ、お母さんが知らない場所って考えたら――

　とびおのところしかなかったの」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［とびお］

「……そうか」

［とびお］

おれは、りりの頭をポンポンと叩く。

人のことは気にかけるくせに、

自分の悩みは抱え込みやがって。

［とびお］

「泊めてやるのは構わない。

俺のとこで良かったら、いつでも来い。

ただし……」

［とびお］

「親に心配かけんな。

まずはそこからだろ。

……きちんと、けじめつけろ」

［とびお］

「逃げてばっかなんて、お前らしくないぞ

……そうだろ？」

［とびお］

りりが驚いたように顔を上げた。

［りり］

「……けじめ、ね。

ははっ……いや～、

うん、そうだね……」

［とびお］

苦々しそうにりりは笑う。

しかし、すぐに大きく頷いてみせると

自分のスマホを取り出した。

［りり］

「……わかった。

ありがと、とびお。

……けじめ、つけてみるよ」

//ADV形式終了

//4話終了